

## 大震災後の木材の供給はどうなるか

3月11日の午後2時46分に東北地方を大震災が襲い約1ヶ月時間が経過しました。合板が少ない、MDFも少ない。不燃材のグラスウールも無い。電気温水器も無い。キッチン周りの部材も少ない。等々住宅関連物資の供給が不安になる話ばかりです。何故住宅関連物資の供給が不安定になっているのかを分析すると合板・MDF・器具等は工業化商品です。この工業化商品を日本国内で製造している超大手の工場は東北地方に多く有ります。その工場が大規模な被害に遭っている事が一番の原因ですが、こと木材に関して言えば南洋材の2014年問題『天然林の大幅な伐採規制が近い将来実施されます。第一段階としてサバ州の一部エリアでは4月1日に大幅な伐採ルールが変更になりました。直径60センチ下と直径1メートル20センチ上は伐採が不許可になり。択伐が義務化されました。ちなみにマレーシアの一昨年度の全体の伐採数量は約400万立方でした。昨年は約200万立方です。今年は約100万立方の予測が有ります。』が有ると思います。

東北地方の国内産合板生産数量は日本全体の約30%相当だと聞いています。その分を今まででしたら海外で調達できたのですが、その穴埋めが短期的には凄く難しくなっているのが現状だと思います。又近年の日本国内の住宅着工戸数の大幅な落ち込みで生産規模を小さくしたり、工場を集約化し再配置したのも今回の木材資源（特に合板）の不足に陥った原因だと思います。南洋材の他の樹種も合板同様に入荷が極端に減っています。アガチス材も入ってこない。南洋材のフリー盤（集成材の規格品）も極端に入荷が減っています。何故他の樹種にも影響が及ぶのかと言えば、南洋材製材品を扱っている現地シッパーは本来製材業より合板業を好む傾向が昔から有ります。理由は、設備投資は製材工場より金額的に多くかかるが歩留まりが非常に高く（製材品→歩留まり約40%・合板→歩留まり約80%）つまり投資資金の回収も早いのです。

一般の木材価格は合板価格と必ずリンクしています。合板価格が高ければ一般の木材も量的に流通します。東南アジアの殆どの材は合板に向いていますが、それでも合板にしない方が得な樹種も有るのです。その具体的な樹種の一つがアガチス材です。ここでは何故アガチス材を合板に量的に利用しないのかのコメントは話が長くなるので割愛します。

ラワン合板用の木材が多く搬出されると、それに伴い合板以外の用途の木材も多く搬出されるのが普通ですが、現時点では日本の為に多く搬出されるか解かりません。

ここまでの話は日本国内で間に合わない合板需要に対してマレーシア・インドネシアの供給が不可能だと言っているのは有りません。マレーシア・インドネシアにはまだまだ多くの木材資源が蓄積されています。今後30年間は、大丈夫だとも聞いています。又両国とも知日派で知られる国で日本と本当に友好的な関係を今も築かれています。問題は単価です。私は南洋材を製材しているマレーシアシッパーの話仕入先から聞いています。そのシッパーの詳しい話は守秘義務でお話出来ませんが、ごく一部をお話いたします。このシッパーは工場周辺約50キロ近辺で原木を集めていましたが、日本向けの優良木が少なく200キロ近辺まで材を集めに行かないと集まらなないと、仕入先から聞いています。と言う事は単価の問題に最終的になるのです。遠方に集荷に行くという事は、もの凄い大きな機材を200キロ先に運び、ベースキャンプを何も無い場所に作らなければなりません。膨大な経費が掛かるのです。その膨大な経費を木材代金に乗せなければ採算が取れないのです。現在でも南洋材原木は昔ほど多くは有りません。国内に原木で輸入されていますがその原木も同じ様に奥地から伐採されてきているのです。

ところで万国博覧会が大阪で開かれた時のラワンコンパネ合板の価格を知っていますか。当時1850円/枚でした。確かに為替は当時は360円固定相場制でした、現在変動相場制85円で比較は単純では有りませんが、現地シッパーがこの数字だけ見れば儲かっていると見えるかも知れませんが、儲かっているのではありません。為替分以上に搬出コストが凄く上がっているのです。

はっきり言えば日本国内の木材価格が安すぎるのです。この事は過去の服部新聞で何度も書きましたが、木材価格が安すぎる為に、日本全国に有った多くの合板工場・製材工場を日本人自らの手で潰してきたのです。それが一極集中をせざるを得ず今回の震災で被害に遭い物不足に陥っているのです。

**\* 全ての樹種について言える事は単価が上がれば物は潤沢に廻ると思います。**

# 私が見た震災

4月7日から9日の3日間関東方面に営業に出かけました。写真は4月7日午前10時に車の中から茨城県神栖市の住宅街を写した写真ですが、テレビ・新聞の被害報道は津波による大変多くの被害が出ている所ばかりです。しかしそれ以外の所を小生が狭い範囲では有りますが見てきました。



液状化で道路がガタガタになっています。



神栖市の場所（茨城県南部）



家が傾いている



学校のフェンスが倒れている



交差点が液状化の為に盛り上がっている



復旧活動が中々進まない様子は何となく解かる



道路がいたる所で大きな亀裂が走っている



何キロも続く南茨城の被災地

被害の甚大な岩手県・宮城県・福島県の3県は死者・行方不明・被害家屋等の事は全国の日本人に報道されています。しかし東北3県以外の県の被害の報道は余りにも少ないと思います。それで皆様に小生が見た感想とこの現場を見せて頂いた茨城木工の泉社長の話を下記に書かせて頂きます。

現地のライフラインは、電気は部分的に復旧していますが、上下水道・ガスの復旧工事は大幅に遅れています。又道も液状化で大きく盛り上がり沈下したりしている所が多く見かけられ、夜バイクで外を走るのとは不可能『道がガタガタ・外灯は無しで、暗闇状態です。』な状態だと思いました。東日本大震災の被害の全体像は今も解かっていません。しかし泉社長は南茨城の沿岸部から青森県の太平洋沿岸部まで延々500キロがこの神栖市と同じ様な状況になっていると仰っていました。仮に海岸から10キロが震災の影響があったと想定すると500キロ掛ける10キロ合計5000キロ平米が何らかの影響を受けた計算になります。

阪神大震災も多くの人命が失われ多くの被害に遭われた建物も多く有りましたが、較べようが無い被害だと思います。阪神大震災の後遺症はいまだに残っています。外観は復旧出来たと思われる方が殆どだと思いますが、今でも二重ローンで苦しんでいる方は多くいらっしやると聞いています。もし5000キロ平米に住まわれる方々がどれ程の人口がいるのか小生は分かりませんが、阪神大震災に比較にならないくらい多くの国民が経済的負担を強いられるのは間違いないと思います。テレビコマーシャルで国民一人一人何が出来るのかを考えて欲しいと訴えていますが、簡単に被害に遭われた方を救う方法は少ないと思います。そして今回の被災地と阪神大震災の被災地を較べると、ボランティア活動が容易ではないと思いました。阪神大震災の時は淀川を挟んで大阪側は被害が少なかったです。ボランティアの皆様は大阪に拠点を置き神戸に積極的に活動して頂きました。しかし今回は余りに被災地が広範囲で完全装備『燃料・生活物資・寝る場所・等々の必要な物を全て自己調達し自己完結出来る限られた方しかボランティア活動は不可能です。』の自衛隊と一部の精鋭のボランティアしか活動できないと思いました。

では直接被害に遭っていない関西の人間が出来る事は何かを考えると今までどおりに生活する以外に無いと思います。単なる節約ではなく私は投資的節約と言わせて頂きます。『二重窓にして光熱費を節約する。風呂に家族で入る時間を限られた時間にする。風呂のお湯を洗濯に使う。物を大事に扱い整理整頓する。要らない物が出来ても無闇に捨てず必要な方を探す。ごみが少ない包装した食材を購入する。修繕出来る物は徹底して修繕し使う。車の運転も省エネ運転に徹する。エアコンの設定温度の小まめな調整等々数えられない位多く有るとおもいます。』そこで節約したお金で省エネルギーのLED照明に変えたり、節電節水タイプの洗濯機を購入したり、節電タイプの冷蔵庫に買い換えたりして正しく消費活動をした結果が被災者を含む日本全国の方達に貢献する事になると考えます。

## 関東方面の取引先訪問

4月7日から4月9日の日程で茨城県・千葉県・東京都・群馬県・神奈川県横浜市・神奈川県鎌倉市・神奈川県藤沢市・神奈川県海老名市・神奈川県座間市の9社のお客様を訪問させて頂きました。目的は関西の人間として個人服部雅章として何が出来るのかと材木屋として何が出来るのかを考える出張でした。





訪問させて頂いた方は色々なジャンルの方々です。食事を食べさせて頂きました。美味しいお茶も頂きました。又送り迎えをして頂き大変有難うございます。訪問させて頂いて東京方面の事情が大変良く分かりました。詳しい話の内容は守秘義務が有るので服部新聞に掲載出来ません。今回の訪問の目的は材木屋として何が出来るかの話を皆様にお聞きしに行く事でしたが、お客様の答えは、はっきり言って現時点で我々木工所も何をすれば良いのか、解からないし現時点で約1ヶ月先の注文は有るが先々注文が有るのか凄く不透明です。と言う答えでした。しかし私は服部商店の無垢の在庫をもっと利用して頂いたならもっと多くのご注文を取って頂けるのではないかとお客様のお仕事の現場つまり工場と木材置き場を見せて頂き、又仕事の内容の話を承って痛感いたしました。木材は決して単価が優先する商品では有りません。安心して注文を出せる仕入先なのか、品質も安定した商品が来るのか、色々な用途の注文に対応出来る幅広い樹種を扱っているのか。ご注文を取る為のすぐ使える乾燥材の在庫が用意出来るのか。其れを迅速に配送が出来る手段が有るのか。それ以外にも材木屋の使命は有ると思いますが、それに対応する事は服部商店にとって極々当たり前の事だと思えます。何時も実践してお客様に喜んで頂いていると思っています。この震災でより一層今までどおり仕事をする事こそお客様に安心してご注文を取って頂けることだと思えます。

確かに寄付・募金活動をする事は大切なことですが、我々大阪府民は先ほども述べましたが、賢い消費活動をする事こそ震災現場に貢献出来る事だと思えます。

## 震災に遭われた材木屋の若者がいたら是非ご紹介下さい。

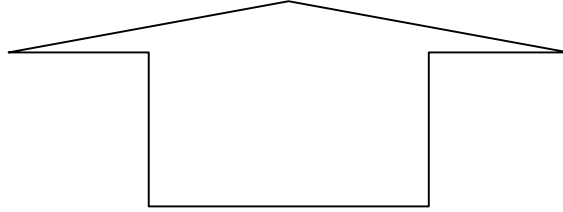
私は現在52歳ですが、大学の卒業式の前昭和56年1月6日から愛知県に当時有りました名古屋市売木材に修行に行きました。名古屋市売木材とは東海木材市場加盟の市売り問屋で主にヒノキ・スギの原木・製材品の委託販売の市売りをしている会社です。そこで3年3ヶ月、お給料を頂いた修行をさせて頂きました。その3年3ヶ月は服部商店が扱っていない国産のヒノキ・スギを触らせて頂いたので、建築士さんと国産材の話が出来る様になった訳です。私はその会社で色々な事を学びました。苛めも受けました。会社の同僚と仕事で言い合いもしました。しかし今の私が存在させて頂けるのはその会社のお陰だと思えます。そこで今回の震災の事で会社・住いが無くなった方が大勢いらっしゃる事はマスコミ等の報道で存じ上げていますが、震災の地元で材木屋を営んでいて、しかも跡取り目指し、年齢も大学を出た前後の方がいらっしゃれば、私の会社で修行する方を是非募集したいと思えます。身元のはっきりした方で、もしそういう方がいらっしゃれば是非ご案内を頂けたらと思えます。

私自身今すぐ東日本大震災で直接何かをしたいとは思いましたが、現時点でボランティアで現地に出掛けるのは無理が有ると思えます。しかしボランティア・募金寄付活動以外の私の思いも震災復興につながると思えます。

又地元の最近の材木関係の若者たちは仕事の肉体的辛さの環境は、機械化が進み、昔より良くなりましたが、しかしその分材木屋の本懐『木材を買いたい、もしくは使いたい方から木材の質問を受けた場合正しいお答えが出来る事、又即答が出来ない場合答えを教えてくれる仲間がいる事。亡き父親の遺言ですが、材木屋は木工所の医者でならねばならない。』を忘れたのではないかとと思っています。材木の事なら何もかも解かる方を是非育てて東北地方の復興に役に立つ人間を世の中に送り出せる事が出来たら凄く嬉しく思えます。

別紙アンケートを入れていますのでもし該当する方がいらっしゃればご紹介下さい。

FAX 072-422-8577



材木屋の息子で父親の後を継ぎ今回の東北地方の震災に遭い大阪の服部商店で修行したいと思う方をご紹介下さい。

紹介者	
紹介者の住所	
紹介者の連絡先	
紹介して頂ける方のお名前と年齢	
紹介して頂ける方との関係	
紹介して頂ける方の住所	
紹介して頂ける方の連絡先	

〒 596-0011

大阪府岸和田市木材町16-1

(株) 服部商店

服部雅章

TEL 072-438-0173